2022 年 4期 8課 新約聖書の希望

【暗証聖句】
「その証しとは、神が永遠の命をわたしたちに与えられたこと、そして、この命が御子の内にあるということです。御子と結ばれている人にはこの命があり、神の子と結ばれていない人にはこの命がありません。」ヨハネ手紙一 5 章 11、12 節

【日・この世の人生の向こうにある希望】

聖書には永遠の命への希望が教えられています。この希望を持っている人と持っていない人とは、人生の考え方や死についてのとらえ方がまるで違ってくることでしょう。この永遠の命を与えられるものは、死から復活することになるわけですが、私たちの復活はイエス様の復活と切り離して考えることはできません。

コリント一 15 章 12～14 節「キリストは死者の中から復活したと宣べ伝えられているのに、あなたがたの中のある者が、死者の復活などない、と言っているのはどういうわけですか。死者の復活がなければ、キリストも復活しなかったはずです。そして、キリストが復活しなかったのなら、わたしたちの宣教は無駄であるし、あなたがたの信仰も無駄です。」

コリントの教会において、ある者がイエス様は死者の中から復活したけれども、私たちの復活はないと言っている者がいたようです。イエス様と私たちは別だというわけです。ところが、パウロはそうではないと言います。イエス様が死から復活したのは、私たちのためだったのだ。つまり私たちの復活を確かなものとするために、イエス様は復活されたのだと教えています。逆に、もし人の復活がないのならば、イエス様も復活する必要はなかったのです。イエス様の復活と私たち信じる者の復活は密接につながっているのです。そして、もしキリストが復活しなかったのなら、わたしたちの宣教も信仰も無駄になると続けました。つまり、私たちの宣教と信仰の土台こそ、このキリストの復活なのだと教えています。

【月・わたしは再び来る】

黙示録の中には 4 度も、「私はすぐに来る」(黙示録 3:11)とイエス様が約束してくださった言葉が書かれてあります。これが激しい迫害の中にあった初代教会の原動力となったのは間違いありませんし、私たちセブンスデー・アドベンチスト教会も、世界に広がっていく力となってきました。しかし、「すぐに来る」と言われてから、すでに 2000 年近くの時が経過しています。いったいいつ主は戻って来られるのでしょうか。再臨が遅れていると感じている人も少なくありません。しかし、それはあくまでも人間の時間感覚であって、主のもとでは一つも遅れているわけではなく、神の時は狂うことなく刻み続けているのです。再臨の遅れに関して、次の聖句が最も良く説明しています。

ペトロの手紙二 3 章 8、9 節「愛する人たち、このことだけは忘れないでほしい。主のもとでは、一日は千年のようで、千年は一日のようです。ある人たちは、遅いと考えているようですが、主は約束の実現を遅らせておられるのではありません。そうではなく、一人も滅びないで皆が悔い改めるようにと、あなたがたのために忍耐しておられるのです。」

主のもとでは、一日は千年のようで、千年は一日のようですと言っています。まず時間感覚が神様と人間とは異なるということです。「千年は一日のようです」という言葉を文字通り当てはめるなら、主が「すぐに来る」と言われてから、まだ 2 日しか経過していないということになります。次に、「主は約束の実現を遅らせておられるのではありません」とはっきり書かれています。決して再臨の時は遅れているわけではないことを覚えておく必要があります。ただ、再臨の時が遅れていると私たちが感じてしまうような時に、再臨の日時を設定しておられるようです。それには理由があります。それは、「一人も滅びないで皆が悔い改めるようにと忍耐しておられる」からなのです。

教会の講演会などでは、時間通りに始めないで少し遅れることがあります。それは少し遅れてこられる方があるかもしれないからです。受付で人の声がしたり、誰かが教会の戸を開けるのが見えたりしたら、やはりその人たちのために少し待つわけです。それは一人でも多くの人に福音のメッセージを届けたいからです。

イエス様のご再臨は、人間の救いと滅びを決定される瞬間です。一人も滅びることを望んでおられない神様は、一人でも多くの人が悔い改めるのを、忍耐して待たれるのです。

【火・わたしがその人を復活させる】

イエス様がパンと魚で 5000 人を養われた奇跡の後、大勢の人たちがイエス様の後についてきました。彼らはイエス様を自分たちの王に祭り上げたかったようです。しかし、イエス様はパンの出来事を用いて、永遠の命と復活における神様の御心について教えられたのでした。

ヨハネ 6 章 35～39 節「イエスは言われた。「わたしが命のパンである。わたしのもとに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決して渇くことがない・・・わたしが天から降って来たのは、自分の意志を行うためではなく、わたしをお遣わしになった方の御心を行うためである。わたしをお遣わしになった方の御心とは、わたしに与えてくださった人を一人も失わないで、終わりの日に復活させることである。」

イエス様はご自分を天から降って来た命のパンであると例えられました。そして、父なる神様の御心を行うために、地上に降って来たと言われました。父なる神様の御心とは、この地上で王となることではなく、主を信じる人たちを終わりの日に復活させることでした。それゆえ、また「わたしは命のパンである。あなたたちの先祖は荒れ野でマンナを食べたが、死んでしまった。しかし、これは、天から降って来たパンであり、これを食べる者は死なない。」(ヨハネ 6 章 48～50 節)とも言われたのでした。このようなことを言った人は人類史上後にも先にも誰もいません。イエス様による以外に救いはない。イエス様による以外、死から命へ移されることはないのです。
　また、この復活の勝利に与かる人達のことを、「(父なる神様が)わたしに与えてくださった人」と表現しているのも興味深いところです。真に悔い改めた者たちは、その罪が赦されて義とされて救われるわけですが、言葉を換えればそれは、キリストのものとなったということなのです。キリストの者となった者たちが皆復活させられるのです。

【水・神のラッパが鳴り響くと】

テサロニケ教会の人々は、主が戻って来られた時に生き残っていた人々たちだけが永遠の命に与かると考えていたようです。しかし、次々に亡くなっていく兄弟たちを見て、希望がもてなくなってしまっていたようです。そのような誤った考えに対して、パウロは主の再臨前に眠りについた人々と、主のご再臨のときに生き残っていた人々の間で何が起こるのかについて、次のように語ったのでした。
テサロニケの信徒への手紙一 4 章 13～18 節
「兄弟たち、既に眠りについた人たちについては、希望を持たないほかの人々のように嘆き悲しまないために、ぜひ次のことを知っておいてほしい。イエスが死んで復活されたと、わたしたちは信じています。神は同じように、イエスを信じて眠りについた人たちをも、イエスと一緒に導き出してくださいます。主の言葉に基づいて次のことを伝えます。主が来られる日まで生き残るわたしたちが、眠りについた人たちより先になることは、決してありません。すなわち、合図の号令がかかり、大天使の声が聞こえて、神のラッパが鳴り響くと、主御自身が天から降って来られます。すると、キリストに結ばれて死んだ人たちが、まず最初に復活し、それから、わたしたち生き残っている者が、空中で主と出会うために、彼らと一緒に雲に包まれて引き上げられます。このようにして、わたしたちはいつまでも主と共にいることになります。ですから、今述べた言葉によって励まし合いなさい。」
パウロは主が再臨されたとき、まず信仰を持って眠りについた兄弟姉妹たちが復活し、その後、生き残っているものたちと一緒に天に引き上げられていき、永遠の天国に入ることになるのだと言っています。このみ言葉は、葬儀の時に必ず読まれる希望にみちたものです。私たちは死に対して不安になったり、悲しみに襲われるようなことがあれば、この聖句を通して希望をいただき、互いに励ましあいたいと思います。

【木・永遠の出会い】

パウロは、「わたしはあなたがたに神秘を告げます」(コリント一 15 章 51 節)と言いました。神秘とは何でしょうか。続けて語った神秘とは、「わたしたちは皆、眠りにつくわけではありません。わたしたちは皆、今とは異なる状態に変えられます」ということでした。つまり、皆が再臨の前に死んで復活するというわけではないということです。生きて主をお迎えする者も当然いるわけです。しかし、そのままの状態で天国に入るのではありません。「皆、今とは異なる状態に変えられ」るのです。どのように変えられるのかというと、「最後のラッパが鳴ると、一瞬のうちに・・・朽ちるべきものが朽ちないものを着、この死ぬべきものが死なないものを着ることになります」(第一コリ 15:53)。コリント一 15 章 46、47 節「・・・霊の体があるのです。最初の人は土でできー、地に属する者であり、第二の人は天に属する者です」と、一瞬にして霊の体に作り変えられることが分かります。これは天国にふさわしい体と言い換えても良いかもしれません。また、イエス様はこの状態を天使のようになるのだと言っておられます。
マタイによる福音書 22:29-30 イエスはお答えになった。「あなたたちは聖書も神の力も知らないから、思い違いをしている。 復活の時には、めとることも嫁ぐこともなく、天使のようになるのだ。」
私たちは誰もこれがどのような体なのか分かりません。ただわかることは、今とはまるで異なる体となって永遠の御国を受け継ぐということです。